

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立西高津小学校	八千代市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立西高津小学校	https://www.yachiyo.ed.jp/enisitaka/gaiyo/hyouka/	

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

1～2学年での言語活動科を行う。

国語科から11時間（2年生は10時間）、生活科から10時間、音楽科から13時間（2年生は15時間）、言語活動科に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

東葉高速鉄道の開発により、首都圏の住宅地として開発が推進されている地域の小学校である。児童が生きる社会を見据えた時、高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる。このような状況を踏まえると、言語活動科（外国語活動）を第1学年から実施し、コミュニケーション能力や異文化への児童の興味・関心、能力を高めていくことが求められていると捉えている。そのことへの保護者の関心は高い。

(3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日 平成30年4月1日変更
令和 3年4月1日変更 令和 5年4月1日変更

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

学校ホームページ「けやきニュース」のコーナーで情報提供している。

4. 実施の効果及び課題

- (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係
特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

1年生から英語に慣れ親しむことで、児童アンケートでは「外国語の学習に進んで取り組んでいる」「英語を使えるようになりたい」など、授業や英語について肯定的な考えを持つ児童が89%となっている。外国語活動を行うことでコミュニケーションへの態度が積極的になり、ALTに対して普段の生活から進んで話しかける姿が多く見られる。英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている。また、視覚的に英語の意味を考えながら集中して英語を聞き、さまざまな活動を通して英語をまねたり、歌ったり、楽しみながら授業に参加できている。言語活動科の学習を通してコミュニケーション能力や異文化理解能力を高めていくこと、「話をよく聞き、自ら考え、正しく判断して行動できるよう指導を継続していくことで、本校の教育目標「21世紀に生きるたくましい人間の育成」につながる教育活動が行える。

- (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教育基本法第2条に示された教育の目的の第5項「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」につながる教育活動が行える。学校教育法第21条に示された普通教育の目標の第3項「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」につながる教育活動が行える。

5. 課題の改善のための取組の方向性

ALTとの打ち合わせをしながら、学級担任が積極的に外国語活動の授業に取り組む必要がある。子供たちの力を伸ばす授業力をつけるため、日々の授業改善やOJTに励んでいく。英語に苦手意識を持っている学級担任も、積極的に話そうと努力する姿が子どもたちの学ぶ姿勢にプラスとなり、「英語が好き」な児童の割合が他のクラスより高くなっている。教員の英語力ではなく、授業への姿勢が重要であるということを通理理解していきたい。